

### 3 合流改善を取り巻く新たな課題

クイックプランの策定以降、都や国などが参加した委員会報告、下水道法施行令の改正など、合流改善を取り巻く新たな動きがあり、今後これらの動きに対応していくことが求められている。

#### (1) 合流改善についての国の動き

##### ① 合流式下水道改善対策の基本的な考え方

都や国などが参加した「合流式下水道改善対策検討委員会」は、平成14年3月に合流式下水道改善対策の「基本的な考え方」がとりまとめられた。

##### 今後10年間に達成すべき目標

- ① 汚濁負荷量の削減  
合流式下水道から排出される総汚濁負荷量を分流式下水道と同程度以下に
- ② 公衆衛生上の安全確保  
全ての吐口において未処理下水の越流回数を少なくとも半減
- ③ きょう雑物の削減  
原則として全ての吐口においてきょう雑物（※1）の流出を防止  
など

※1 きょう雑物：オイルボールやごみ。

##### 長期的な改善対策のあり方

- ① 分流化又は施設能力の増強と併せた各戸貯留・浸透
- ② ノンポイント汚濁（※2）対策としての合流改善の実施  
など

※2 ノンポイント汚濁：道路や屋根など不特定の場所にたまった汚れが、雨天時に下水道に流れ込む汚濁。



合流式下水道の改善対策について、下水道法施行令などの改正へ

## ② 下水道法施行令及び施行規則の改正（平成16年4月1日施行）

### 「主な内容」

- 雨天時の合流式下水道からの放流水質の基準を新たに規定
- 10mm 以上30mm 以下の降雨の時に、代表的な吐口で水質検査を年一回以上行うこと
- 雨水吐口（管きょ、ポンプ所）からのきょう雑物流出抑制対策を講じること

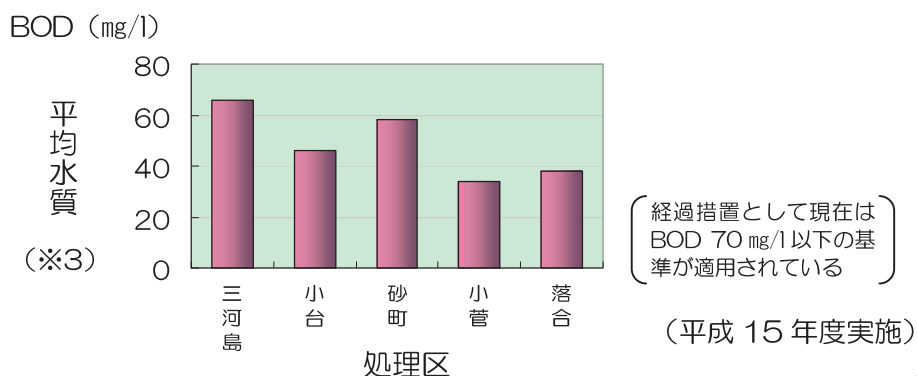
### 「雨天時放流水質基準」として

10mm 以上30mm 以下の降雨の時に、管きょ、ポンプ所及び水再生センターからの放流水質の平均値を、将来達成すべき基準としてBOD（※1）40 mg/l 以下とすること

※1 BOD：Biochemical Oxygen Demand（生物化学的酸素要求量）の略。  
微生物が水中の有機物を酸化分解するときに消費する酸素量。水中の有機物が多いほど、多くの酸素が消費されBODが高くなるので、有機物汚濁の指標に用いられる。

### 参 考（※2）

図2-9 下水道法施行令改正前に試験的に実施した雨天時放流水質の調査結果



※2：平成15年度に実施した調査は、施行令改正前に、各処理区の雨天時の平均水質を把握できる代表的な雨水吐口を選定するため、試験的に実施したものである。

※3：合流式下水道から放流される総汚濁負荷量を、放流水の総量で除した値。



改正された下水道法施行令の規定に対応するため、既存施設を活用した貯留池の整備などの対策を早期に進めていく必要がある。

## (2) お客さまなどからの水質改善の要望

- 近年、まちづくりの視点から、河川沿いの公園や臨海地域の水辺空間の整備が進められている。
- しかし、雨天時にはオイルボールやごみが河川や海へ流出して、水辺の景観を損ねるなどの問題が発生している。



写真2-5 善福寺川

### 水辺環境の改善

善福寺川沿いは、遊歩道や武蔵野の面影を残す木立などが整備され、四季を通して地域住民の散策や憩いの場となっている。

地域では水質調査や環境フォーラムの開催など、水辺環境を考える活動が活発である。



写真2-6 江東内部河川 (写真は旧中川)

### 水辺空間の整備

江東内部河川では、河川改修に伴う護岸の親水化や水質の向上により、地域住民の水辺利用が進んでいる。



写真2-7 芝浦地区

### 運河ルネッサンス

芝浦地区は、都心に近接して海辺や運河などの水辺空間を有し、その優位性を活かして、都市再生を牽引する場として期待されている。

高浜運河周辺では、「運河ルネッサンス」の具体化に向け、水辺のにぎわいを創出するために、運河背後の開発と一体となった護岸整備を進め、潤いあふれる水辺空間の活用を進めていくこととしている。

善福寺川流域、江東内部河川流域、芝浦地区では、水辺利用が活発で、雨天時の水質改善要望が強い。この要望に応える対策を進める必要がある。